

平成28年度 第4四半期（1月～3月）

景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 中小企業相談所

調査概要

- 調査対象
 - (1)対象地区：豊橋市内
 - (2)対象企業数：357社
 - (3)回答企業数：187社（回答率 52.38%）
- 調査期間
 - 平成29年1月～3月
- 調査方法
 - 往復ハガキによるアンケート調査
- 回答企業の内訳
 - 製造業91・建設業27・卸売業21
 - 小売業19・運輸業16・サービス業13

全産業業況DI値は前回調査から0.4ポイント悪化、平成27年度第4四半期から9.5ポイント改善

■全業種概要

全産業の総合判断DI値は▲9.8となり、前回調査（▲9.4）から0.4ポイント悪化、平成27年度第4四半期（▲19.3）から9.5ポイント改善した。

来期見通し（4月～6月）については、業況DI値は▲9.4となり、前回調査（▲8.3）から1.1ポイント悪化、平成27年度第4四半期（▲11.6）から2.2ポイント改善が予測されている。

業況は業種毎に上下の波が見られる、まだら模様の状態が続いているなか、依然として全ての業種で慢性的な人手不足や需要の停滞の影響が広がる調査結果となった。

■製造業

業況DI値は8.0となり、前回調査（7.1）から0.9ポイント改善、平成27年度第4四半期（▲14.3）から22.3ポイント改善した。

3期連続でDI値は改善傾向を示し、前回調査に引き続き、6業種中で唯一マイナス値を免れた。鉄工業では、動向は不安定ながらも米中需要が拡大し、業況を押し上げつつあるとの声が聞かれた。また、観光土産品製造業では、大河ドラマの影響で売上が伸びてきているとの声が聞かれた。

来期見通しについて、食品業では、輸入原料である穀物価格の上昇でコストアップが懸念されるとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「生産設備の不足・老朽化」、「消費品・製品ニーズの変化への対応」が主に挙げられる。

■建設業

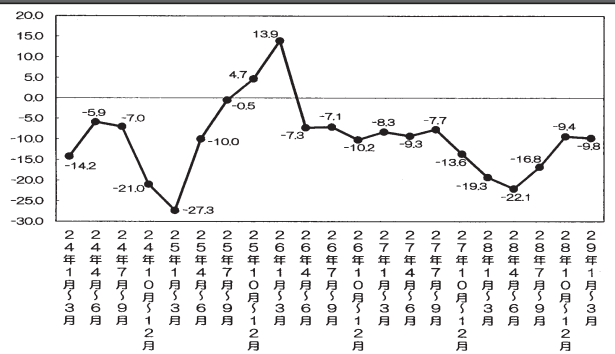
業況DI値は▲22.2となり、前回調査（▲10.3）から11.9ポイント悪化、平成27年度第4四半期（▲13.8）から8.4ポイント悪化した。

民間工事は堅調に推移している一方で、公共工事は全体的に停滞感があるとの声が聞かれた。また電気工業では、工場等の設備投資が減少しており、売上低下に繋がったとの声も聞かれた。

来期見通しについては、官公需要の先行きが不透明であり、受注機会の増大を期待するとの声が聞かれた。

経営上の問題点は、「官公庁需要の停滞」、「従業員の確保難」、「請負単価の低下・上昇難」が主に挙げられる。

全業種



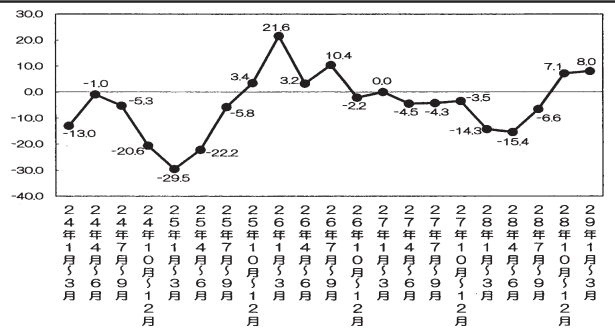
《A》 前年同期（平成28年1月～3月）と比較した景況感

良い	同様	悪い	DI値	
18.6%	53.0%	28.4%	▲9.8	↑

《B》 来期（平成29年4月～6月）の景況見通し

良い	同様	悪い	DI値	
15.6%	59.4%	25.0%	▲9.4	↑

製造業



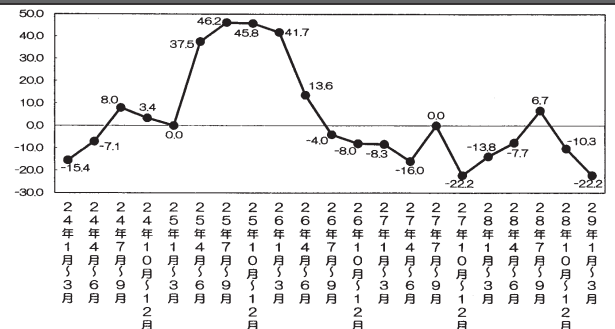
【今期の景況】 平成29年1～3月

業況	8.0	↑
----	-----	---

【来期見通し】 平成29年4～6月

業況	5.9	↑
----	-----	---

建設業



【今期の景況】 平成29年1～3月

業況	▲22.2	↓
----	-------	---

【来期見通し】 平成29年4～6月

業況	▲33.3	↓
----	-------	---

■卸売業

業況DI値は▲30.0となり、前回調査（▲28.6）から1.4ポイント悪化、平成27年度第4四半期（▲25.0）から5.0ポイント悪化した。

全体的に需要が停滞しており、低水準で横ばいとの声が聞かれた。また、建材卸売業では、予想を超えて着工が遅れており、荷動きが悪いとの声が聞かれた。

来期見通しについて、衣料品卸売業では、仕入単価が上昇傾向にあり、採算の悪化が懸念されるとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「従業員の確保難」、「販売価格の低下・上昇難」が主に挙げられる。

■小売業

業況DI値は▲21.1となり、前回調査（▲26.3）から5.2ポイント改善、平成27年度第4四半期（▲19.0）から2.1ポイント悪化した。

衣料品小売業では、全国的な暖冬で冬物が動かず、バーゲンセール時に回復の兆しが見えたものの動きが鈍かったため、売上が伸びなかったとの声が聞かれた。

来期の見通しについては、書籍小売業では、雑誌など紙媒体の需要の減少傾向が続くと予想され、利益確保は困難との声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「従業員の確保難」、「消費者・製品ニーズの変化への対応」が主に挙げられる。

■運輸業

業況DI値は▲25.0となり、前回調査（▲16.7）から8.3ポイント悪化、平成27年度第4四半期（▲71.4）から46.4ポイント改善した。

原油高に伴うコストアップに加え、消費マインドの低迷により物流量が低下したとの声が聞かれた。

来期見通しについては、長引く人材不足の影響は避けられず、加えて原油価格の動向を注視していく必要があるとの見方が広がっていることが窺えた。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「運送単価の低下・上昇難」、「人件費の増加」が主に挙げられる。

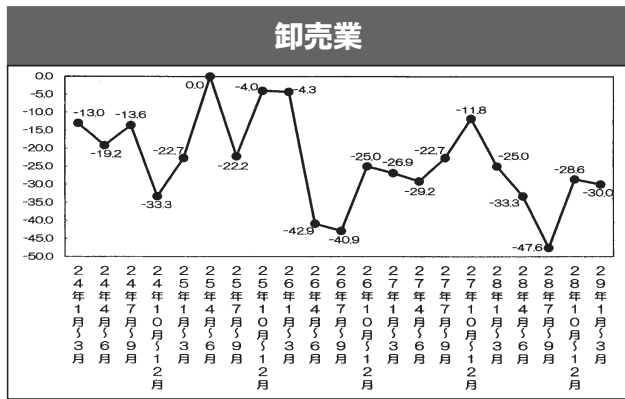
■サービス業

業況DI値は▲38.5となり、前回調査（▲46.7）から8.2ポイント改善、平成27年度第4四半期（0.0）から38.5ポイント悪化した。

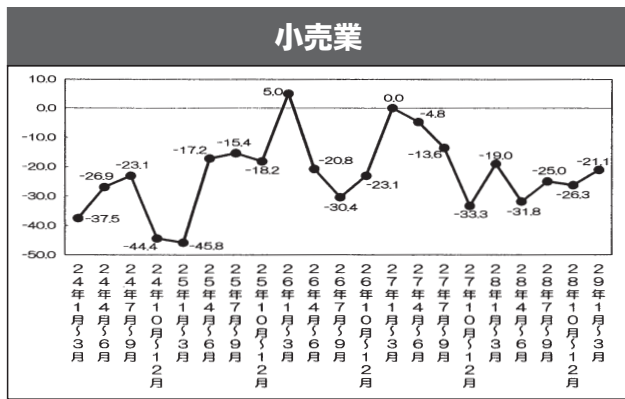
業況DI値は四半期ぶりの改善となったものの、依然として低い水準で推移しており、慢性的な人材不足により人件費が増加し、経営を圧迫している声が多数聞かれた。とりわけ、警備業では、人員確保が困難なため、積極的な営業ができないとの声が聞かれた。

来期見通しについて、宿泊業では、インバウンド団体客が減少傾向にあり、今後も厳しい状態が続くととの声が聞かれた。

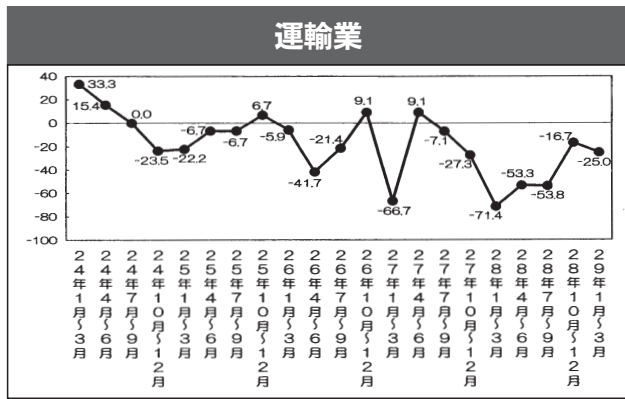
経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「消費者ニーズの変化への対応」、「人件費の増加」が主に挙げられる。



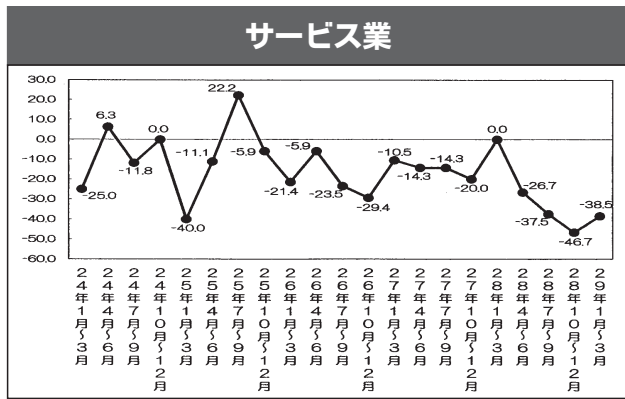
【今期の景況】平成29年1~3月	【来期見通し】平成29年4~6月
業況 ▲30.0 ↓	業況 ▲28.6 ↑



【今期の景況】平成29年1~3月	【来期見通し】平成29年4~6月
業況 ▲21.1 ↓	業況 ▲10.5 ↓



【今期の景況】平成29年1~3月	【来期見通し】平成29年4~6月
業況 ▲25.0 ↑	業況 ▲26.7 ↑



【今期の景況】平成29年1~3月	【来期見通し】平成29年4~6月
業況 ▲38.5 ↓	業況 ▲7.7 ↑